

平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 41人 国語B 41人

② 算数A 41人 算数B 41人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

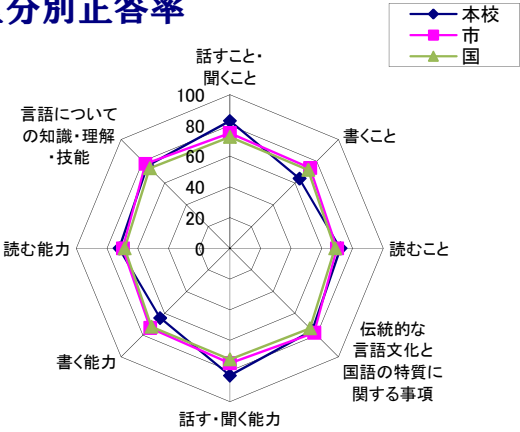
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

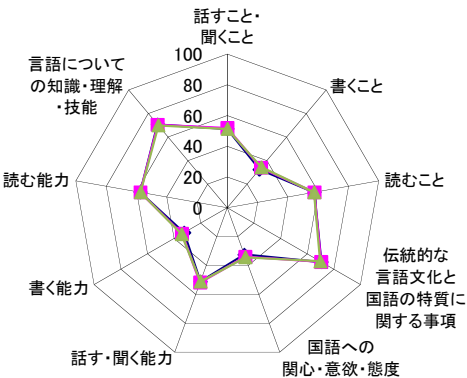
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	82.9	74.9	72.4
	書くこと	64.2	73.9	72.2
	読むこと	72.0	69.7	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.0	77.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	82.9	74.9	72.4
	書く能力	64.2	73.4	72.2
	読む能力	72.0	69.7	68.5
	言語についての知識・理解・技能	76.0	77.8	73.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	51.2	51.9	51.2
	書くこと	32.5	34.0	34.4
	読むこと	57.5	57.5	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.7	70.5	69.8
観点	国語への関心・意欲・態度	32.5	34.0	34.4
	話す・聞く能力	51.2	51.9	51.2
	書く能力	32.5	34.0	34.4
	読む能力	57.5	57.5	57.3
	言語についての知識・理解・技能	70.7	70.5	69.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○国語の授業は大切だと思ひ、学習したことが将来役に立つという肯定的な考え方をしている児童が多い。また、相手にうまく伝えるように話の組み立てを工夫して意見を発表しようしたり、理由が分かるように気を付けて自分の考えを書こうとしたり意識している児童も多い。今後も国語の授業だけでなく学校生活の様々な場面で、話す・聞く・書くなどの力を活用する場面を設定し、力を付けていくと同時に、その有効性を実感させていきたい。

●読書が好きと答えられている児童が平均を下回っている。朝の読書タイムや家庭での読書の習慣化を図るよう指導していきたい。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

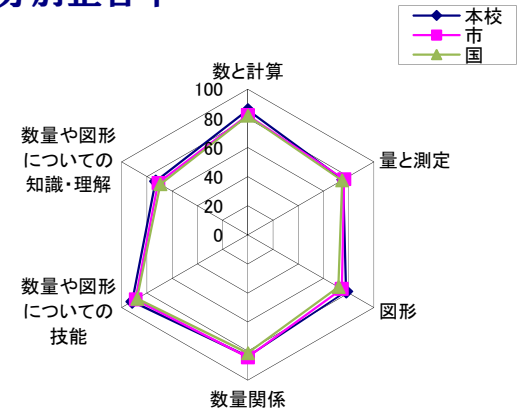
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Aにおいては市の平均より高かったが、国語Bにおいてはほとんど同じであった。 ○Aの話し合いの観点に基づいて情報を関係づける問題の回答率が82.9%と高かった。 ●Bの立場を明確にして質問や意見を述べる問題の正答率が全国や県の平均と同様、26.8%と低かった。	・話す・聞く能力を育むために、今後も1分間スピーチを継続するとともに、国語の授業だけでなく、学級活動等において、スピーチや討論する場面を意識的に設定し、話し手・聞き手それぞれの立場から意見や思いを積極的に理解し合う経験を積ませる。また、どの児童にも司会者の役割を体験させ、相手の発言の流れの中で理解したり、話し合いの観点を整理したりできるようにさせる。
書くこと	●国語A、Bともに市の平均を下回っている。 ○Aの「～たり、…～たり」という表現に直して書く設問の正答率が高かった。 ●Bの2つの詩を読み比べて、自分の考えを書く問題の正答率が43.9%と低く、市の平均より1.4ポイント下回っていた。無回答率も34.1%と全国や県と比べて高かった。	・今後も日記を継続させていく。作文だけでなく、新聞作りや学習の振り返り等、いろいろな場面を通して、自分の考えや感想などを文章で表現する機会を増やし、目的に応じた文章表現の技能を高めていく。 ・新聞や本などの資料を読み比べて共通点や相違点を取り上げさせたり、あらかじめ書きたい内容を構成メモに整理させたりして、自分の考えを、決められた字数で書くことに慣れさせる。
読むこと	○国語Aにおいては市の平均より高かったが、国語Bにおいてはほとんど同じであった。 ○Aの新聞の投書を読み、表現の工夫をとらえたり、Bの二つの詩を比べて読みだる問題の正答率が市の平均より高かった。 ●Bの課題を解決するために目次や索引を活用して本を効果的に読む問題が、全国の平均より2.6ポイント下回っていた。	・日々の読書を奨励し、より充実した読書体験をもたせ、読解力を高めていく。 ・説明的文章では、指示語や接続語の役割に目をつけさせ、文の主旨や内容を理解させるように指導する。 ・日頃から新聞記事や辞典、図書などを授業の中で活用し、必要な情報を読み取ったり自分の考えをまとめたりする学習を意図的に取り入れる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国語A、Bともに市の平均を下回っている。 ○Aの漢字を書く問題では正答率が全問90%を超えていた。漢字を書く問題の正答率も高かったが、「祝う」を書く問題では全国や県の平均よりは高いが65.9%と低かった。 ●故事成語の意味と理解は全国の平均より5ポイント程度高いが、市の平均より7.3ポイント低かった。	・前学年までに学習したことも含めて、繰り返し練習を行ったり、ミニテストやまとめのテストを実施したりして、確実に習得できるようにする。 ・ことわざや故事成語、慣用句などの授業では、言葉について興味・関心をもてるような授業の展開を図ると同時に、時書を活用したり自主学習などで調べたり、知識を広げられるようにしていく。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

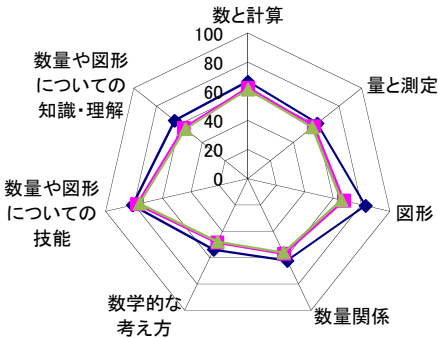
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	85.7	82.2	81.8
	量と測定	75.6	76.4	74.8
	図形	78.0	74.5	71.8
	数量関係	83.7	84.2	81.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	91.8	89.1	87.9
	数量や図形についての知識・理解	73.2	71.1	69.5



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	66.8	62.6	61.3
	量と測定	61.0	58.0	56.5
	図形	82.9	67.5	65.7
	数量関係	62.4	57.1	56.2
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	53.9	48.6	47.8
	数量や図形についての技能	81.1	78.1	76.2
	数量や図形についての知識・理解	64.2	56.3	54.8



★算数に関する質問紙調査の状況

○算数の授業の内容がよく分かり、授業で学習したことが将来役に立つという肯定的な考え方をしている児童が多い。また、算数の問題の解き方が分からないときは諦めずにいろいろな方法を考えたり、授業で学習したことを普段の生活に活用できないか考えたりしている児童も多い。少人数指導による成果が表れていると考える。今後も、児童の実態に応じた補充的な学習や発展的な学習を行っていき、一人一人に対応した指導を行っていきたい。また、基本的な計算の確実な定着を図るために、今後も反復練習や家庭学習の充実を図っていきたい。

○良好なもの ●課題が見られるもの

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○算数A、Bともに市の平均を上回っている。 ○Aの四則の計算の正答率は95%と高く、わり算と異分母の分数のたし算の正答率は100%と全員できていた。Bの工夫して計算する方法を記述する問題でも全国や県の平均より高いものが多かった。 ●Aの割合の比較量を求める問題での正答率が53.7%と市の平均と同程度ながら、他に比べて低かった。	・小数や分数の計算は少人数指導やドリル等での繰り返しの学習で着実に身に付いてきているので、さらに計算の技能を高められるように、繰り返し学習し定着を図っていく。 ・割合については、図や表をよく見て標準量と比較量の関係を理解させ、設問の内容に合った正しい式が立てられるようにする。 ・文章問題では、図や表を用いて式の意味を考えさせ、立式できるような力を身に付けさせていく。
量と測定	○算数Aでは市の平均を0.8ポイント下回っていたが、Bでは3ポイント上回っていた。 ○Bの棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述する問題や、全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択する問題の正答率が全国や県の平均より高い。 ●Aの単位量あたりの大きさの求め方の問題の平均正答率が市の平均と同程度ながら、61%と低かった。	・単位量あたりの大きさは、問題を解く上で何を単位としているのか理解するのが難しいので、重点的に復習するとともに、正解を求める過程を図や文で説明する機会を授業の中で増やし、考え方を説明できるようにしていく。 ・多様な問題に取り組ませ、何を求めるのか線を引かせたり、図に表したりして思考力を育てていく。
図形	○算数A、Bともに市の平均を上回っていて、Aでは8.4ポイント高い。 ○Aの示された条件をもとに長方形を敷き詰める問題の正答率が市の平均より18ポイント程度高かった。 ●Aのコンパスを使ってかいた平行四辺形の特徴を選ぶ問題での正答率が46.3%と市の平均を4.6ポイント下回っていた。	・図形の特徴については、ほぼ理解しているが、垂直、平行など、前学年までに学習した基本的なことがまだ身に付いていない児童もいるので、今後も図形を構成したり分解したりして操作する活動多く取り入れて学習を進めて実感的に理解できるようにさせ、さらに図形の性質や感覚を豊かにする指導を工夫していく。
数量関係	○算数A、Bともに市の平均を5ポイント以上上回っている。 ○Aの四則の混合した式の意味については95.1%と市の平均より9.6ポイント高い。 ●Bの示された情報量を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述する問題での正答率が36.6%と全国や県の平均より高かったが、他設問に比べて低かった。	・計算のきまり(四則の法則)が、整数だけでなく小数の場合にも成り立つことを確かめさせ、計算のきまりに関して、各学年で段階を経ながら丁寧に指導して理解を深められるようにする。 ・2つの数量の関係を求める学習では、表から数値を読み取るだけでなく、問題場面をイメージさせり図に表させたりして、関係を見つけれられるようにさせていく。

宇都宮市立昭和小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○学校へ行くのは楽しい、学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあるという設問での肯定的な回答の割合が90%以上と高い。授業だけでなく、学校生活全般に於いて、児童一人一人が楽しく居がいのある学級経営の充実を図り、児童にとって魅力ある学校を目指したい。

○本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますかという設問にたいする肯定的な回答が95%を超えている。昨年度は日光、今年度も修学旅行に於いて、本やインターネットを用いてグループで調べ学習を行って学習を進めてきた。今後も本や教育機器を有効活用し、学習を効果的に進めていきたい。

○友達と話し合う活動についての肯定的な回答の割合が90%を超えている。友達と教え合ったり、意見を交換し合ったりする場面を設定した授業構成が定着してきていると考えられる。今後も、友達との学び合いのよさや楽しさが感じられるような授業を展開していきたい。

○学校や友達関係の悩みを家の人に相談する回答が市の平均より高かった。家族を信頼し、円満な家族関係の様子が伺える。

○先生は、よいところを認めてくれていると思いますかに対する肯定割合が市の平均より高かった。これから、児童一人一人のよい面を認めて、伸ばしていきたい。

●普段（月～金曜日）、2時間以上やビデオ・DVDを見たり、聞いたりしている児童が60%を超えている。また、1時間以上テレビゲーム（コンピュータゲームや携帯・スマートフォンでのゲーム）をしている児童も60%を超え、いずれも市の平均より高い。それに伴い、家庭での学習時間や読書する時間が市の平均より、短くなっている。学校でも宿題や自主学習について見直すと同時に、家庭でもテレビやゲームについてルールを決めるなど、時間の使い方について家庭とも連携して指導していきたい。